

支那骨董叢說

第二集

第二集

支那骨董世襲記

崇文會聚行

支那骨董叢說第二集目次

卷一 古銅器

古銅器圖

古銅器圖說

製式

古銅色

歟識

眞贋（附偽造法）

古銅印

古鏡

古銅佛像

唐銅器

宣德銅器

餘論

卷二 玉器

產地

名目

玉色

古玉の製式

古玉の特徴

偽古法

附 瑪瑙。琥珀。瑠璃。南珠。玳瑁。

餘論

紫檀。散栢楠。烏木。太湖石。斑竹。

引用書目

(古銅及玉部)

宣和博古圖

呂大臨考古圖

西清古鑑

續西清古鑑

古玉圖譜

游宦紀聞

格古要論

金石策

清秘藏

潛確類書

遵生八牋

通雅

鍍網珊瑚

兩壘軒彝器圖釋

歷代鐘鼎彝器款識

金石萃編

金石契

玉紀

玉紀補

鍍園山叢談

洞天清祿

韻石齋筆談

宣德鼎彝譜

米庵墨談

後編續刻豫定目次

一	一	一	一	一	一	一	一	一
雜	碑	法	書	印	香	紙	墨	筆
硯								
器	版	帖	畫	章				

支那骨董叢說第二集卷一

永壺軒主人纂述

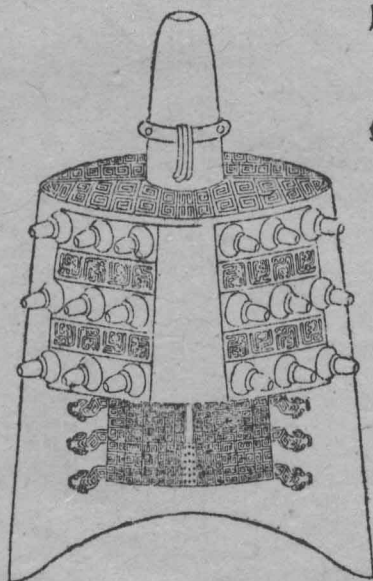
○古銅器

支那の銅器は三代（夏、商、周）の製作を第一とし漢唐之に次ぐ、唐以下世々製作ありといへど物質製法の俱に佳なるもの、明の宣德に如くものなし、故に古來銅器を論ずるもの三代漢唐以下直ちに宣德に及び其の他に論及するもの少なし斯の篇亦其の例に倣ひ先づ三代の器を説き漸次漢唐と宣德に及ぶべし、然れど支那の銅器は、種類極めて多く且年代遼遠にして現在常用の器にあらざるを以て鐘鼎彝尊等の外は其の器を見るも其の名を知らざるものあり、故に斯の篇先づ其の種類を挙げ一々其名と用法を示し、然る後銅色、款識、及び新古、眞贋の別に論及せんとす

三代の器に用ゐし銅は何の處に産せるものにや詳しき記載はなけれど黃帝、首
 山の銅を採りて鼎を荆山の下に鑄るといふ語あり、按ずるは首山は今の河南省
 許州の襄城縣に在り荆山は同省開封府の禹州に在り、當時黃帝の都せし今の直
 隸省涿州と相距る甚だ遠からず、地理の上より見ても首山の銅を採しは疑ふべ
 からず、三代の時に至り夏商は皆な河南に都せしをもて或は首山の銅を採しな
 らんも周は初め陝西の長安に都せし故或は別に陝西に銅坑を開きしやも知れず
 要するに支那には銅鑛ありといへど機器備はらざるをもて多く採掘する能はず
 朝野雜記に據るに宋初に至り福建、四川、湖廣、江淮、浙江等皆な銅坑を開き
 一年の採掘額七百五萬餘斤に及びたるも其の後次第に減少せりとあり、然れば
 明の宣德年間の銅器も其の原料は暹羅國王の貢物に係り自國產出の銅にあらず
 近く清朝に至りても銅貨鑄造の際は多く原料を我國に取れり其の產出の少なき
 推して知るべし

○ 古 銅 器 圖

周
鐘

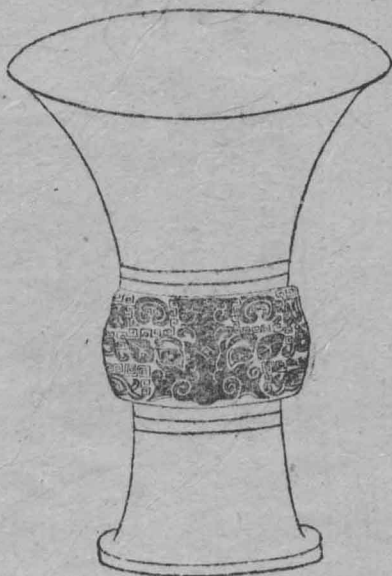


商
鼎



周

尊



商

彝



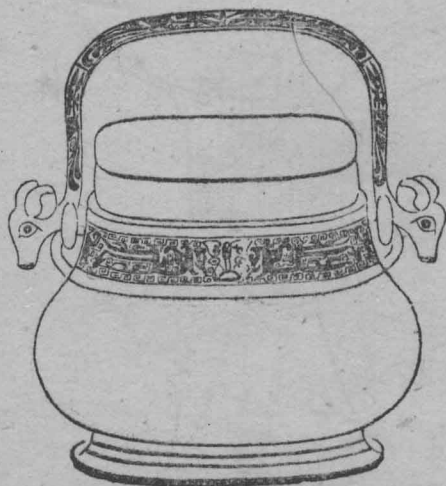
周

鼎



周

卣



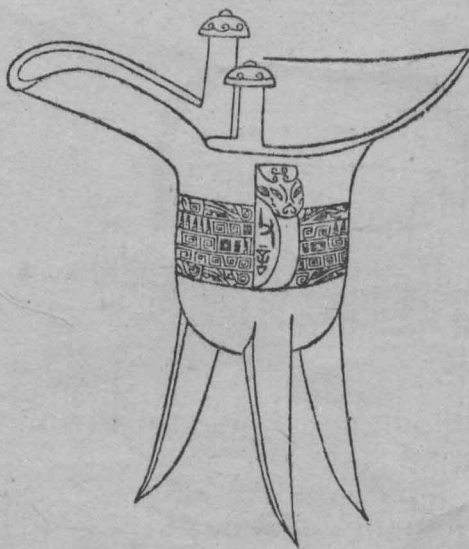
周

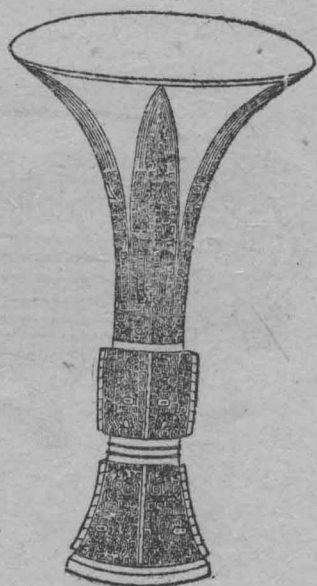
壺



商

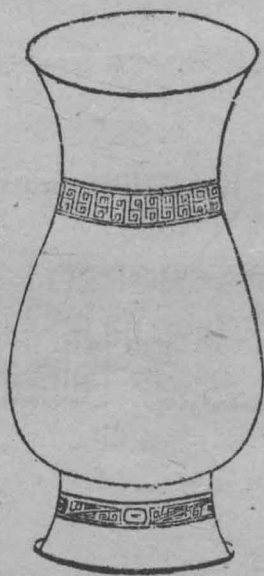
爵





商

觶



周

觶

周

敦



周

簋





周

簋



周

匜

周

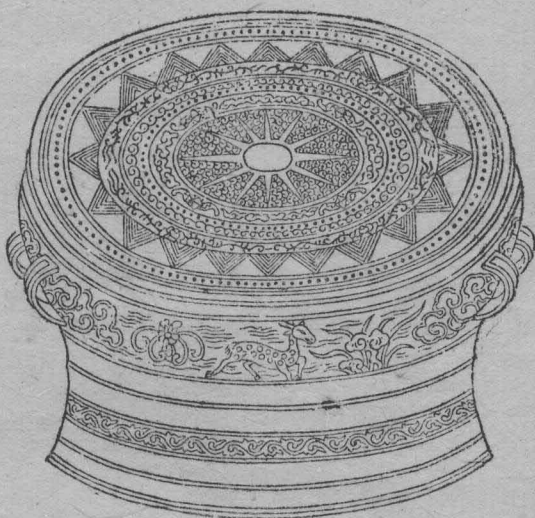
盤



漢

銅

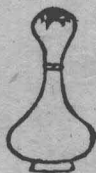
鼓



壺 匾



壺 溫



壺 方



瓶



角



鬲



盃



甗



杯



卮



豆



甗

